



聖書箇所:創世記2章15~17節
『神が人に命じられたこと』

【1】 聖書が教える「労働」

- ・ 古代オリエント世界の「労働観」と聖書の教える「労働」
- ・ 「神である主は人を連れて来て、エデンの園に置き、そこを耕させ、また守らせた。」(創世記 2:15)
 - 「耕す(アバド)」: 土地を耕し、家畜の世話をするなどの意味
 - 「守る(シャマル)」: 監視する、保護するなどの意味
- ・ エデンの園でのルーティン

▷聖書が教える労働とは、神が自らの仕事を人に押し付けたものではなく、神のかたち
に造られた人に与えられた本質的な役割なのです。

【2】 誰のために働くのか

- ・ 礼拝のために奉仕し、礼拝の場を守る「アバド」と「シャマル」
 - 「耕す(アバド)」と「守る(シャマル)」は、レビ部族の幕屋での奉仕や礼拝の場を守る場面にも登場(民数記 3:7-8)
 - 神に礼拝をささげる幕屋での奉仕とエデンの園で「耕し、守る」働き
 - ▶ 「耕す」、「守る」は農作業を意味するだけでなく神への奉仕も含まれる

▷神は人間に単なる労働力を求めたのではなく労働を通して神をたたえ、神を喜ぶことを願われたのです(詩篇 127:1)。

【3】 神が人に命じられたこと

- ・ 「園のすべての木からとって食べて良い」
 - 「いのちの木」も含まれていた
 - 唯一の例外として「善悪の知識の木」から食べることを禁じられた
- ・ なぜ神は「善悪の知識の木」を置いたのか
 - 人に「選択の自由」を与えるため
 - 神は人に自分の意志で神を愛し、従う自由を与えた

▷ 私たちもさまざまな場面で選択を迫られることがあります。私たちが何を選び取るべきかと考える時、神が私たちに自由を与え、尊厳を与えてくださっていることを思い起こしたいと思います。「自由な意志」を持って、心から神に愛し従う道を選ぶことができますように。